



巻頭



巻中



部分

30 金剛秋色図巻 福田眉仙

一巻

大正十一年（一九二二）  
純本着色  
四四・二×一三四八・一

朝鮮半島第一の名山として当時名高かった金剛山の名勝を描く。「萬二千峰」といわれた金剛山は、無数の峻嶮な峰が連続し、その間を溪流が時に穏やかに、時に瀑布となって流れ、その豪壮と静寂の両立した景観は文人や画家たちの憧れであった。東京美術学校教授の寺崎廣業なども「東洋の名山たる朝鮮の金剛山を跋涉して、親しくその山霊に接し、我が輩の理想を傾けて、不朽の大作を残したいものだ」とその憧れを語っている（『美術写真画報』二巻五号、大正九年五月）。また新羅時代より仏教が盛んだったことから、金剛山は奇岩奇勝の中に美しい伽藍を誇る古刹が数多く点在していた。金剛山は中央連峰最高峰の毘盧峰の西側は「内金剛」、東側は「外金剛」、東側の海岸付近が「海金剛」と呼ばれていた。本絵巻も海金剛から始まり、外金剛の神溪寺、九龍淵、そして内金剛の望軍臺、摩訶衍、靈源庵、萬瀑洞、正陽寺など奇勝や古刹などが子細に描き込まれている。紅葉した楓に覆われ、楓嶽とも称された金剛山の秋景が、絵巻という形式を活かして一大パノラマのように描かれている。

作者の福田眉仙（一八七五～一九六三）は、兵庫県赤穂郡矢野町瓜生（現在の相生市）生まれ、久保田米麿に師事した後、東京美術学校に入学し、その後日本美術院で岡倉天心、橋本雅邦らの指導を受ける。明治四十二年（一九〇九）から四十五年まで中国各地を旅行し、また大正十年（一九二二）には朝鮮半島をめぐる、それぞれの地を題材にした作品をのこした。本絵巻は序文を松方正義、跋文を徳富蘇峰が記し、大正十一年に作者より松方正義を通じて献上された。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan